

## アジアにおけるエネルギーの安全保障 - 原子力・新エネルギーの役割 -

エネルギー総合工学研究所理事  
松井一秋

世界の人口は60億から90億あるいはそれ以上に膨張すると言われ、多くの貧しい人々の生活水準の向上を図るとすると、相当のエネルギー供給が必要となる。2100年には今の3倍のエネルギーが必要と言うのはかなりモデストな見方ではあるが、大気中の炭酸ガス濃度を550ppmに押さえようとしたとしても、3倍では大きすぎて2倍程度に押さえ込む、すなわちいわゆる省エネの必死の努力が求められる。世界の炭化水素資源の経済的な供給余力については疑問ありとせざるを得ないが、たとえ能力があったにしても主として環境上の制約から今まで以上の利用は問題が多く、むしろ炭化水素への依存を低減する、より効率的な利用を図る必要がある。

アジアは人工、経済の伸びが世界の他の地域と比較してもダントツに大きく、したがってエネルギー・環境問題が凝縮している。それはかつての日本の姿を見ればよく分かるが、しかし他のすべての諸国がわが国と同じ道を、あるいは過ちをたどってよいことにはなるまい。かなりはっきりしていることは、ことにこの地域での原子力の平和利用は最大化する必要があり、かつ世界の、人類のよりよい生活を目指した発展のモデルとなるべく考えるべきではないか。多様な民族、文化、機構、自然、そして人々がそれぞれの多元的な価値を尊重してともに発展していくための多くの条件はここアジアには存在していると信じる。

原子力だけが唯一の解ではないことは明白で、エネルギーについては効果的かつ効率的な利用が大前提で、炭化水素資源の有効利用、自然エネルギーとの相乗的なかつ相互的な原子力利用の道も模索すべきと考える。